

## 人工知能×アダプティブ・ラーニング! クラウド型学習システム「すらら」 放課後等デイサービス<sup>(※1)</sup>の導入校舎数 10校突破 案内開始から3ヶ月、北海道釧路市から沖縄県石垣市まで全国に展開

株式会社すららネット(本社:東京都千代田区 代表取締役社長:湯野川孝彦 以下、すららネット)は、クラウド型学習システム「すらら」の提供、および、運用支援を行っています。この度、「すらら」を導入した放課後等デイサービス施設数が、2017年9月末時点で12校舎となりました。「すらら」の案内開始からわずか3ヶ月で全国10校舎を超えたこととなります。

※1 放課後等デイサービス: 学校通学中の障がい児に対して、放課後や夏休み等の長期休暇中において、生活能力向上のための訓練等を継続的に提供することにより、学校教育と相まって障がい児の自立を促進するとともに、放課後等の居場所づくりを推進。2012年に児童福祉法改正により制度化。(参考:厚生労働省 HP)

放課後等デイサービス施設に導入が進んでいる「すらら」小学校低学年版は、子どもの発達科学研究所監修のもと、一般の小学校低学年の児童はもちろん、発達障がいや学習障がいを持つ子どもでも取り組みやすく、学力を伸ばせるよう、カリキュラム構成や画面の見やすさ、説明の理解のしやすさを考慮し制作したものです。

放課後等デイサービスは、制度が始まった2012年以降、施設数は増加の一途をたどり、現在は全国で約9600施設となっております。様々な特色を持った放課後等デイサービスが全国で運営されていますが、保護者のニーズの高い学習支援サービスを提供できている施設は多くありません。その中で、学習支援サービスを他の施設との差別化に活用したいと考えている施設が「すらら」を導入しています。

「放課後等デイサービス『グローバルキッズメソッド西原店』(所在地:栃木県)では、パソコンによる資格取得に加えて、「すらら」による学習支援の取り組みも始めています。

また、「放課後等児童デイサービス『ファーストハンドコミュニケーション』(所在地:沖縄県)」では、中学3年生の高校受験の対策教材として「すらら」を活用しています。

パソコンやタブレットを使ったeラーニング学習は、発達障がい児や学習障がい児に適している点も多いと言われています。実際、各施設では、時間を忘れて集中して学習する生徒の姿も見られ、保護者からの満足度の向上が期待されています。



▲「グローバルキッズメソッド西原店」の外観

すららネットでは今後も「教育に変革を、子どもたちに生きる力を」という理念のもと、国内外問わず、品質の良い教育を低価格で提供することで社会の問題を解決していきたいと考えています。

# NEWS RELEASE



## ■小学校低学年版「すらら」

一般の低学年児童はもちろん、学習障がいを持つ子どもでも取り組みやすく学力を伸ばせるよう、公益社団法人子どもの発達科学研究所の協力を得て製作したもの。学習障がい児への対応を考慮した工夫点の例としては、国語では、識字障害の弱点を克服するため、ところによって音声に合わせて文節単位でハイライトすることで文字を追いやすくしたり、文字量の多い画面では不要な箇所をグレーアウトし、目に入る情報を減らしたりしている。



## ■子どもの発達科学研究所 (URL : <http://kodomolove.org/>)

○理事長：片山 泰一

○活動理念：大阪大学、金沢大学、浜松医科大学、千葉大学、福井大学ら5大学の子どものこころの発達研究センター(\*)との連携のもと、科学的根拠に基づいたプログラムの普及と啓発活動を行う。保護者、教育関係者、行政・医療関係者の連携を促す。

○活動内容：・発達障害の早期発見と子育て支援に関する調査研究

- ・こころの成長の正しい理解、啓発のための広報活動
- ・発達障害のある子ども達の発達支援教育と就労支援に関する調査研究
- ・その他、社会活動・普及の窓口等への支援

(\*)子どものこころの発達研究センター



## ■クラウド型学習システム「すらら」とは

【学習範囲】 小学1年生～高校3年生までの学習指導要領に準拠

【対応教科】 英語・数学（算数）・国語

【利用者数】 約40,000名（2017年4月末現在）

【特徴】

### ○Point 1 スモールステップでわかりやすいインタラクティブ授業

1つの単元は10から15分程度で、小さな階段を少しずつ上るような構成。

しかも授業は一方的ではなく、随所で先生役のキャラクターが問いかけを行い、問題に答えていくというインタラクティブスタイル。そのため、飽きることなく、適度な緊張感を持続し、楽しみながら学習を進めていくことが可能。

### ○Point 2 難易度調整や弱点診断ができる演習ドリル

一人ひとりの理解度に応じて出題される問題の難易度を調整する「出題難易度コントロールシステム」を搭載。「簡単すぎず難しすぎない」問題が出題されることで、達成感を感じ自信を深めながら、学習を進めることが可能に。また、何がわからないから問題が解けないのか理由を探る「弱点自動判別システム」も搭載。

### ○Point 3 現役の塾の先生による手厚いフォロー

いつまでにどこまでの学習をするかといった「月1回の目標設定」や、つまづいているところがないか「週1回程度の電話やメールでの進捗確認」など、継続して取り組めるよう現役塾講師がフォロー。また、クラウド型学習だからこそ、学習内容や正答率・解く速さなども詳細に把握できるので、お子様一人ひとりに応じたきめ細やかな学習指導が可能。

<参考>これまでのeラーニング教材の大半は以下の3パターン

1. 動画配信型：カリスマ講師のレクチャービデオを視聴するタイプ  
「理解」にはすぐれているが「反復」の部分がないうえやりっぱなしになってしまい、実力が身につかない傾向がある。また、一方的な説明となるため、比較的意識の高いお子様でない、集中力が続かない。
2. 問題集型：問題集の結果をパソコンに打ち出して結果分析をするタイプ  
「定着」にすぐれているが「理解」の部分がないうえ、学力の高い生徒でない、一人で学習を進めることが困難な傾向がある。
3. ゲーム型：携帯用ゲーム機などを使って学習するタイプ  
非常に楽しく学習できるが、単語など反復による暗記系が中心で、体系的な学習には不向き。

「すらら」はこうしたそれぞれの短所を補い、長所を相乗効果的に組合せた、理想の"次世代型教育システム"です。



## ■「すらら」の“アダプティブ・ラーニング”機能

生徒の解答結果から独自のアルゴリズムにより苦手部分を分析・特定し、生徒それぞれに最適化した学習すべき解説や問題を自動で提示する機能。学習者が苦手分野を自分で克服できるようにする。

## ■「すらら」の人工知能

AIが個々の生徒の学習データに基づき先生の替わりに生徒と対話を行う機能「AIサポーター」を搭載。慶應義塾大学 中室牧子研究室と行った共同研究の結果を受け、「努力を促す声掛け」を中心に変更し2017年4月16日より正式運用を開始。生徒の学習意欲の向上や学習習慣の定着を促す。

### ■ 株式会社すらら ネット 会社概要

- 設立：2008年8月 ○ 資本金：13,795万円 ○ 所在地：東京都千代田区内神田
- 事業内容：クラウド型学習システムによる教育サービスの提供および運用コンサルティング、マーケティングプロモーション及びホームページの運営
- 会社 URL： <http://surala.jp/>
- 受賞歴：
  - ・第9回日本 e-Learning 大賞 文部科学大臣賞(2012年)
  - ・Japan Venture Awards 2014 中小機構理事長賞(2014年)
  - ・第2回「日本ベンチャー大賞」社会課題解決賞(審査委員会特別賞)(2016年)
  - ・第8回「千代田ビジネス大賞」大賞(2016年)
  - ・「SDGs ビジネスアワード 2017」スケールアウト賞(2017年)